



第 34 期放射線安全取扱部会 支部長，委員長ご挨拶

北海道支部長に就任して

佐藤 博隆

第 34 期の北海道支部長を拝命いたしました北海道大学大学院工学研究院の佐藤博隆です。支部委員の方々のお力添えのもと支部活動を進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今期の北海道支部委員を紹介いたします。再任委員として 3 期目の筆者，2 期目の佐藤香織氏（札幌医科大学），東山貴之氏（（株）千代田テクノル）には継続して就任いただきました。一方，前支部長の北浦廣剛氏（北海道医療大学）の任期満了にともない安井博宣氏（北海道大学大学院獣医学研究院），前支部委員の華園究氏（酪農学園大学）の任期満了にともなう後任として出口辰弥氏（酪農学園大学）を新委員に迎えました。以上の北海道支部委員 5 名により第 34 期の運営を行って参ります。

定例の活動は，放射線取扱主任者試験の解答例作成と教育訓練 e-ラーニング作成で，コロナ禍で途切れている支部研修会・施設見学会の再開を今期の目標としています。

2029 年度に放射線安全取扱部会年次大会を北海道支部が担当する予定となっております。前回 2022 年度はコロナ禍の影響でオンライン開催でしたが，2029 年度は 15 年振りの対面開催になるでしょう。第 34 期の北海道支部委員の大半が大会開催に関与する見込みです。

北海道支部の会員数は 2025 年 7 月 31 日時点で 41 名と全国最少です。更に，私立大学の RI 施設・関係者が減少しています。そのようななかではありますが，北海道地区の放射線取扱主任者の皆様にお声掛けし，支部活動の活性化が図れればと考えております。部会員の皆様，ご指導ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（北海道大学大学院工学研究院）

東北支部長に就任して

船木 善仁

このたび，山本文彦前支部長（東北医科薬科大学薬学部）の後任として第 34 期の東北支部長を務めさせていただくことになりました，東北大学先端量子ビーム科学研究センターの船木と申します。今期の東北支部は，昨期に引き続き委員を務められる高橋和弘氏（福島県立医科大学）及び齋藤美希氏（弘前大学）の両名に，今期新たに加わった齋藤陽平氏（東北医科薬科大学），橋本雄貴氏（（株）千代田テクノル），遠山翔氏（東北大学）の 3 名を迎え，筆者を含めた計 6 名で運営を行ってまいります。支部委員の皆様と共に，東北地区の支部活動をより一層活発に進めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

当支部の定例活動としては，教育訓練 e-ラーニングの作成，放射線取扱主任者試験の解答例作成，放射線管理実務セミナーの開催等がございます。更に，今年度の大きなイベントとして，東北支部が担当する「令和 8 年度放射線安全取扱部会年次大会」が開催されます。

会期は 10 月 22 日（木）・23 日（金）の 2 日間，会場は福島市の「コラッセふくしま」です。「不易流行～震災から 15 年、未来へのエール～」をテーマに，4 つの特別講演やシンポジウムの他，これまでの年次大会にはなかった新しい企画も準備しております。東日本大震災から 15 年という節目の年の福島開催に大きな意義を感じつつ，実行委員一同，皆様のご参加をお待ちしております。

「是非，福島にこらっせ！！」

（東北大学先端量子ビーム科学研究センター）

関東支部長に就任して

佐々木博之

第33期に引き続き、第34期関東支部長を拝命いたしました富士電機の佐々木です。今期も支部委員の皆さんのお力添えのもと精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。今期の関東支部委員を継続期毎にご紹介いたします。3期目の片岡賢英氏（慶応大学）、佐山邦之氏（アロカ(株)）、2期目の赤塩敦子氏（理化学研究所）、小坂尚樹氏（東大）、関健介氏（杏林大学）、松村万寿美氏（筑波大）、新たに赤石泰一氏（青山学院大学）、齋藤祐樹氏（帝京大学）、佐藤春彦氏（(株)イング）、塩原良建氏（(株)日本環境調査研究所）、山崎信哉氏（筑波大学）をお迎えし、佐々木を含めた計12名で運営して参ります。今期のメンバーも医療、研究、加速器施設の放射線取扱主任者やメーカー、サービス分野と多様性に富み、管理実務や許認可申請等、経験豊富なベテランから次代を担う若手の布陣で、バランスのよい支部構成で更なる委員の活躍に期待しております。昨期の活動は試験問題の解答例作成、e-ラーニング教材作成、外部講師派遣等に対応し、常に改善を行って会員向けサービスの充実を図ってまいりました。また令和6年度放射線安全取扱部会年次大会（松本市）の開催や令和7年度放射線管理研修会を行いました。多くの会員の皆様にお越しいただき盛況に終えたことには、関係者やボランティアの皆さんのご協力があったことで感謝申し上げます。

この活発な支部活動（アフターも）をとおして支部委員間のつながりも深まったと考えています。既に34期の支部活動が始まり委員全員が一致協力して支部活動に取り組んでおります。これからも活発な支部活動と会員サービスの両立を目指し、部会を盛り上げていきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い致します。

（富士電機(株)）

中部支部長に就任して

杉田 亮平

このたび、第34期中部支部長を拝命いたしました名古屋大学の杉田亮平です。支部委員の皆さんの

力添えをいただきながら、地域に根ざした活発な支部活動を推進してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今期の支部運営は、再任の北村陽二氏（金沢大学）、田中将裕氏（自然科学研究機構）、山口智広氏（金城学院大学）、山本晃生氏（日本レイテック(株)）に加え、新たに赤丸悟士氏（富山大学）、犬塚俊康氏（岐阜大学）、近田拓未氏（静岡大学）をお迎えし、筆者を含めた8名体制で臨みます。フレッシュな顔ぶれのもと、新たな発想や多様な視点を大切にしながら、中部支部の活動を一層充実させてまいります。

活動の1つである放射線取扱主任者試験に関しては、中部地区の受験者はこれまで他地区への遠征を余儀なくされてきました。しかしながら、継続的な働きかけの結果、2025年度より名古屋会場が復活いたしました。本年度も継続して設置されることを心より歓迎いたします。当支部としても、受験者の皆様が地元で安心して試験に臨める環境の維持に努めると共に、試験問題の解説作成を通じ、学習面からも支援してまいります。

また、地域の産業界における放射線安全管理を支えることも重要な使命です。中部地域に拠点を置く企業からの依頼による教育訓練では、現場のニーズに即したプログラムの提供に努めております。更に、コロナ禍以降見合わせていた施設見学会も再開いたしました。これらの活動を通じ、多角的な視点から知見を深める機会を提供してまいります。

中部地区の放射線取扱主任者及び実務者の皆様にとって、より有益で「顔の見える」支部活動を目指してまいります。皆様のご指導とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

（名古屋大学アイソトープ総合センター）

近畿支部長に就任して

松本 敦

第34期近畿支部委員会の支部長を拝命いたしました松本でございます。平素より放射線安全取扱部会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

第34期は、3期目の朝田良子氏（大阪公立大学）、梶白育男氏（日本メジフィジックス(株)）、2期目の

菓子野元郎氏（奈良県立医科大学）、小久保友絵氏（(株)アトックス）、平野雄生氏（(株)日本環境調査研究所）、藤本裕之氏（京都大学）、新任の加川信也氏（滋賀県立総合病院）、中村秀仁氏（京都大学）、本岡和博氏（大阪大学）をお迎えし、松本を含めた計10名で運営してまいります。多様な専門性を生かし、実効性の高い支部活動を展開してまいります。

近年、放射線利用を取り巻く環境は大きく変化しており、医療、産業、研究の各分野においてその重要性は一層高まっております。一方で、安全管理に対する社会的要請も高まり、法令遵守に加え、リスクに基づく実効性の高い取扱体制の構築が求められております。このような背景のもと、近畿支部では、現場に即した安全取扱の知識と実践力の向上を目的とした活動を推進してまいります。具体的には、最新の規制動向や技術情報の共有、事故事例の分析に加え、放射線利用事業所への見学や研修会を計画し、実務に直結する知識の習得機会の充実を図ってまいります。また、毎年夏には主任者を中心とした交流の場である「スターナイトカンファレンス」を開催しております。本会は参加者同士が率直に意見交換できる貴重な機会となっており、安全文化の醸成や人的ネットワークの構築に寄与しております。

支部活動は会員の皆様の参画によって成り立つものであります。今期も引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

((株)コーガアイソトープ)

中国・四国支部長に就任して

岩崎 智之

第33期に引き続き、第34期の中国・四国支部長を拝命いたしました愛媛大学学術支援センター医科学研究支援部門の岩崎智之です。今期も皆様のご支援を賜りながら、精一杯務めてまいります。まず、今期の支部委員について紹介させていただきます。再任は松田詳平氏（(株)千代田テクノル）、堀川秀昌氏（徳島大学）、甲高彩華氏（島根大学）と筆者（愛媛大学）の4名です。そして、新たに二宮和彦氏（広島大学）、片岡隆浩氏（岡山大学）を委員としてお迎えし、引き続き多様性に富んだ6人体制で、支部活動の一層の活性化を図ってまいります。



図 第34期中国・四国支部委員構成

主な定例の活動は、支部研修会の開催と放射線取扱主任者試験の解答例作成です。支部研修会につきましては、引き続き皆様にとって有用な内容となるよう企画してまいります。また、今期は来年度の年次大会を見据えて、各地の部会員や他支部の皆様とも積極的に連携し、計画的に準備を進めてまいりたいと思います。今期もどうぞよろしくお願いいたします。

（愛媛大学学術支援センター）

九州支部長に就任して

永元 啓介

このたび、第34期九州支部長を拝命いたしました。尾上昌平前支部長（鹿児島大学先端科学研究推進センター）をはじめ、歴代支部長並びに関係各位が築いてこられた活動を受け継ぐこととなり、身の引き締まる思いです。微力ではございますが、委員の皆様と連携しながら、支部活動の更なる発展に尽力してまいります。

第34期は、三浦美和氏（留任・長崎大学）、山川博文氏（留任・福岡大学）、土屋雅之氏（留任・(株)千代田テクノル）、後藤裕樹氏（新任・熊本大学）、敷元気氏（新任・宮崎大学）と筆者の6人体制で運営してまいります。

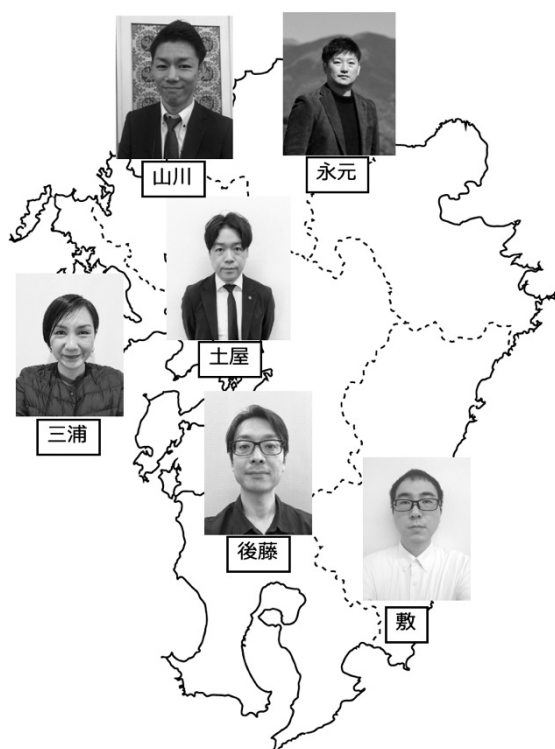


図 第34期九州支部委員構成

近年、放射線利用を取り巻く環境は多様化しており、医療分野に加え、獣医療や研究分野においても安全管理の重要性が高まっています。一方で、教育機会の確保や施設間の情報共有等、現場には依然として課題も残されています。

第34期では、「主任者等の連携と情報交換に関する事項」を重点項目として掲げ、オンラインと対面を組み合わせた活動を通じて、会員間の横断的な連携と情報共有を推進してまいります。また、次世代の放射線安全管理を担う若手人材が主体的に関われる場づくりにも取り組んでまいります。

定例活動としては、支部研修会の開催及び放射線取扱主任者試験の解答例作成を予定しております。これらの活動を通じて、実践的な情報共有と相互理解の促進を図ってまいります。

今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(産業医科大学 産業生態科学研究所)

法令検討専門委員長に就任して

北 実

このたび、法令検討専門委員会の委員長を拝命しました、鳥取大学の北実です。前期は、桧垣正吾前委員長（東京大学）のもとで法令検討委員を1期務め、その責任の重さは十分認識しております。

幸いにも桧垣正吾氏並びに亀田周二氏（(株)千代田テクノル）、鈴木智和氏（大阪大学）には今期も引き続きご協力を賜れるとのことで、心強く存じます。

更に今期からは、元近畿支部長も務められた、豊富なご経験をお持ちの矢鋪祐司氏（(公財)原子力安全技術センター）、また代表を務められている放射線取扱施設における安全管理技術の継承分科会において、法令の理解や現場での対応について活発な議論を重ねてこられた坂口修一氏（山口大学）を新たにお迎えし、このメンバーで委員会活動の一層の充実を図ってまいりたいと考えています。

気がつけば、筆者自身も20年以上にわたり放射線管理の現場に身を置いてまいりました。放射線の利用を後押ししつつも、放射線取扱主任者として、安全取扱を何より大切にしてきたつもりです。その指針の1つが関係法令ですが、法令を1人で読み込むだけでは、その趣旨や考え方を十分に汲み取れない場面も少なくありませんでした。そうした判断に悩む場面で道標となったのが、諸先輩方の知見、そして当委員会が中心となって取りまとめた「放射線管理Q&A」でした。

第34期におきましても、これまでの取組みをしっかり受け継ぎ、過去のQ & Aの更新・追加を継続すると共に、内容の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

皆様のご指導、ご協力を賜りながら、実務に資する委員会活動を進めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

(鳥取大学研究推進機構)